

3. 活動内容

<平成27年度の報告内容>

本校の生活科、総合的な学習の時間に展開されている「町学習」で目ざす子どもは、ESDの目ざす「持続可能な社会へ構造を変えようと行動する人」の姿と重なる。ESDの要素を含んだ学習活動である「町学習」は、町へ出かけ、町の自然、環境、人、こと、ものに関わり合う体験的な学びを通して、主体的に課題に取り組み、発信しようとする子どもを育てていく学習である。

町学習における子どもたちの育ち	学年	「単元名」 ○ 目ざす子どもの姿
	1年	「きせつのおそびを楽しもう」 ○身近にある自然に親しみ、自然が大好き、学校大好きといえる子 ○自分が経験したことや思ったことをみんなの前で話すことができる子
	2年	「はっけん！すごいぞ ぼくらの町」 ○学区を探検し、お気に入りを見つけることで、自分の住む地域に親しみを感ずる子 ○相手に応じ、調べたことや経験したことをわかりやすく話すことができる子
	3年	「聞いて！大好きな 西尾の町のすてきな人」 ○町の店調べやインタビュー活動を通して、地域の人、こと、ものに愛着をもつ子 ○相手や目的に応じ、調べたことや自分の考えを筋道を立てて語れる子
	4年	「ぼくらはフーム調査団 ーぼくらの宝・二の沢川ー」 ○町の様子や自然環境を調べる中で、身近な川への愛着をもち、地域環境をよりよくしようと考えられる子 ○集めた情報から自分の考えをもち、相手や目的に応じて資料を使って説明できる子
	5年	「つなごう ぼくらの町の祭の火」 ○町の伝統を受け継ごうとしている人々とかかわり合う中で、人々の思いや願いにふれ、ふるさとの将来を考えられる子 ○目的や意図に応じて、考えたことや伝えたいことの方法を選んで語ることができる子
	6年	「ふれあいまち歩きツアー」「安全安心な町づくり計画」 ○ふるさとの自然や歴史、文化、産業などから課題をみつけて、それを解決するため主体的に活動できる子 ○自分が得た情報を取捨選択し、多面的に捉え、聞き手の印象に残るように工夫して説明できる子

<成果と課題>

校区を流れる二の沢川を調べた4年生は、川に何度も出かけた。中に入って生き物の様子や水質などを調査したことで、地域の自然に目を向ける子どもが増えた。また、他市で同じように地域の川について調べている小学生との交流から、二の沢川のよさに気づき、愛着の気持ちを深めていった。そして、自分たちで川をよりよくしたいという思いから、川について調べたことを中心にまとめて発表したり、ボランティア活動に参加したりして川の環境をよくしていく活動に取り組んだ。このような子どもの生き生きとした活動は、西尾の町への思いが高まった表れと捉えることができる。それを私たちは、子どもとふるさと西尾の町との関わりが深まったと考えている。

町の人、こと、ものとの出会いによって心を揺さぶられ、主体的に課題に取り組んでいく実践を後も継続していくことで、持続可能な社会へ構造を変えようと行動する子どもたちを育成したい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）